

旬先第
中

特 別

14

3157

4(2)

0 65 70 75 80 85

44
3157
4(2)



句尻弄

章なくして祕語乃うらなれり大と
物珍奇せし雜詠集よりうらな
此一局存れしは是をうらなを
自由にもうらなはるは是の祕の
詞のそにかあはる古詩古歌經新
ともなり一語子なる人おつても
やひくをなはるるの句は功あり
そらそ人を一丁に鼓中つみ
祕もともあはるるは鼓子よら

し〜自然の合意する〜
文句あり〜
この本さあ〜

諺物

三十六番

肅山

飛蚤我も体心ハ苦しい。

晋子

かぶみ〜魚ら良川原に

酒債すむ旦暮月も〜
彫棠

花之れ切溜乃 桶 山

断くも人々もん刀持 晋

浮舟 徒士ハ〜
社堂 棠

掛造り 祈り志望の浦あまや 山

籠も只鳴し 志乃 称名 晋

良の〜
棠

うふ〜
山

山の神妻え〜
晋

立ち〜
棠

燦掃子笠も藪もくつげ
 赤丹舟酒をこき茶こと
 佐屋廻りありけし世の海
 四つら鼓い月のおほり夜
 花の床三寶加持の行ひあり
 又大長を節乃果因
 うち見みい忍るゝと角螺サライ
 携る力もくしもあるの日記
 山 山 山 山 山 山 山 山

訖ニ觸りありく烏帽子引るき
 形くま山く持来れ世中
 子杯こり十色も一茶と
 子の母や子おろりのあやぐ
 数珠切へ三懸るいのほほ色
 酔し序山乃ちる乃何あめ
 けりし社も心志ききの杖
 あり今髪も肩の縫わけ
 山 山 山 山 山 山 山 山

月乃宿さうなと云うは傍ハ
 音 亦取寄も通用み奈より蘇
 崇 小舟この御ちやくさこハ大衆
 山 心つらふとあのもこハ伯母
 音 亦賊の力をさうおの所化の時
 索 亦おのる色也 魚上る舟
 山 やふハ乃おをさうとあを待^テ志^ト
 音 ちこましくと春乃 酒盛
 索

發回八月廿九日乃昼七又
 葬送の場あり崩心乃悲を
 懐ちて四生乃起かをさう 晋子
 一 淋^キ 蠟^ト 亦奈も脱^ス
 々々^ト 母も 行^キ 神^ト 信^ト 病
 世の破^レ 第^ト ありさうと音あは
 無^ク 此^ト 音^ト あり乃酒
 所^レ 全^ク と思^ヒ ぬ氣より涌^リ 出^ス
 礼者の踏^リ なるより雪汁

楽初もきこなく見ゆる詠賢る
大名持乃畑はあふ草
我世ゆる標のゆきの雑司谷
菜碗りよくらほはあなま
山家での遊行も誓所をふとけり
今産婦ゆふし猿の子
あらの声 嵐ましく古戦場
石地りあまを雪籠を糸

草穂と藪をくらねる谷のあ
藪の同至北井園して 是
まほひある林雲はのくみ人
あまをゆるやうの縁笠
七つ年物持をうもくちま
仕向をぬ燕枝もとくま
花乃存子日るくま川
海苔をかり考察切を嘯

目うゝ死耳うゝ死うゝくれの世
みは見えしむ 似成をあり
此後ほしむのこころ思ひ
世越るむくみ邪正衣服
まはてて傍房多た中よ小柴垣
何み追きし井くある翁
物すとおとあわ所乃 男きき
あしむみはるん平伴の歌

あつとつととあつとつとみはる
四夜の仕着せ振るるる
鄙くを舅でいといひ
齋イキのころあひみくくき酔
風呂簾しりあつとつと月夜
紋のあつとつといつとつと此
芋の根みちいふとつと地のを付し
殺生石法くくくくく

白中

六

東順傳

芭蕉稿

老人東院を梅氏より〜の紀子
 江初聖田乃農士竹氏と稱ス梅氏
 さらよそのち晋子り母〜のよる
 一のあり〜七十歳あり〜を
 のあり存茲病る旅の〜の極き〜
 花鳥の情ありを悲〜の思ひ恨
 己の麻衣なり〜津に〜を
 孫よりしぬの向をわび〜して大
 業が典の〜を〜隠る〜
 時時を〜して〜乃産〜なる

何某の如〜俸祿を〜釜魚
 飢塵乃懸す〜世は
 ち〜の衣を〜杖を
 担いで業を捨つ既六十歳の〜
 なり市店を山に〜
 さら〜を〜
 十〜其筆の〜車〜
 こか〜
 物〜は是少大隱朝市乃
 人〜
 入月乃後を机に四隅が

行草躰 三十四句

悲悲鳴

晋子

ちんちん^{カニル}く 蝦^{カニル}こころある 涙うふ
 並^{カウ}を色 鶴乃 和のさ^{カウ}の
 春荷と^{カウ}の旅人^{カウ}のひら^{カウ}
 おれし 有^{カウ}けと 焼物
 七食めと 世をさ^{カウ}る ち^{カウ}の月
 ゆ^{カウ}る^{カウ}の^{カウ}し 葬乃^{カウ}と^{カウ}

氣子つきて 小仔濁る 水の昏
 卅日^{カウ}りあると 家^{カウ}を^{カウ}る^{カウ}
 我^{カウ}恋^{カウ}る^{カウ}の^{カウ}内^{カウ}係^{カウ}を^{カウ}わ^{カウ}る^{カウ}
 湯豆腐乃 湯のさ^{カウ}あ^{カウ}る^{カウ}つ^{カウ}れ^{カウ}る^{カウ}
 系^{カウ}枕^{カウ}を^{カウ}の^{カウ}寐^{カウ}さ^{カウ}る^{カウ}を^{カウ}お^{カウ}る^{カウ}
 伏見乃 勢^{カウ}所^{カウ}を^{カウ}あ^{カウ}く^{カウ}て^{カウ}
 炎昔^{カウ}の^{カウ}風^{カウ}土^{カウ}記^{カウ}の^{カウ}な^{カウ}る^{カウ}
 芋^{カウ}あ^{カウ}る^{カウ}の^{カウ}城^{カウ}中^{カウ}乃^{カウ}畑

白中

川をり川板と一なる叫小猿
温泉入る海に山る月
むの宿ひづつと酒市を拍カり
葦タラみるらるるかじし菜の味
い目の目法十里ハ奇モトイく驚トイき
そ安の蕪ウよせと下料店
なれらきも稲子餅を入て並
孫をひくびし息災於祖母

楽國ハフ長泊りもなるとり
松のこまー花あけり月
吹出ハ麻もささりフ笛の音
いしひやうよカチ泥陶イる酒
病中をも乳母の尻シ子遊シり
琴の下極キり何ナニも入イん
在ア所トもよほしけおん酒飲シの時
市女シメうウハ出デ茶チ屋ヤじシり

のちをら車の後く牛の咭
切を突きし鮎・飛付ク
花油見くを枯く面を赤く
傘少りてゑむ 春玉

五月廿八日

何芽の原中 あらふて

晴るくま

涙をかける

ゆふのちや 蚤ちいさし 柳の原 晋子

松乃る 蚊めけし 涼 柴栗

扇の原 子ひらつて 夏み 介我

二つ あらせて 蛇とむめる 吾

あはれく 刀の多む月 我痛 系

長もよに よ 旅の 我 我

の 菊の 花 けし 娘の子 音

包とをよけし 饅頭乃 笛 系

此よつとてし狐佛事を乞はしし我
和田恩智等も知しありん言
炭賣の侍らる初ナクと舞マシて系
毛をむしふあや活イサカの雉我
と初も籠コて百らの菜ハつ活イサカし
あまきしとらる花乃海乃系
茶箱初ハツもをせ恥ハし家
乃々女房あま〜唐紙カガミ言

袖の月十年あまれとて系
片ハろろ鯛をみ菜海打我
以レ比乃鶉トけをし菜の湯ユえん 晉
店流の尼乃まああは〜〜系
我〜〜泣ナ〜〜御ミりし小船改我
蕨ワケ〜〜あらのわろる鴻トビ費 晉
黄鷹ワカれ鳥トリ〜〜あま〜〜松マツより系
以中燃ヒ〜〜醉サケ〜〜あま〜〜我

和歌

三

結成の証うち形し以成る香
車成ぬいて御す材木系
白子紙の糖をゆくぬ下谷を我
占ひのそと也 非子の宿札 晋
法持を五等く單ヒトエをうけてを系
おほとありうろ志ある吹笛 系
匂草の匂しうけゆるはぐりき 晋
じりぬきくく茶味こねあ 系

そのらふて酒の心脈ハ飛を川系
世る其景やうろし我山 晋
汁カキ淡くもを練る六花あるん我
あを成新まきく月の鶯 系

白井

六月八月 慶慈

十三

背敷ふ玉座に坐る精りけり

聞指

散くく居く遠く灯を垂す音子

糸撥邪にゆかまてりよらん山蜂

蝶のゆく糸を酔し押ユレ指

言の月既の類のおわんこ音

所胎水とてわくほさん 塔

川の氣味をまき悲し風本此山指

何とま音乃豆こりゆる音

日のせと蠅のへるるをたか 塔

親乃稚みくもや何と乱指

水をうららくとあふふ音

基をた指をた付て 塔

一帯を不賀者人のあかりし指

やうての下えや膏のるは月音

白中

塩

面^{ツカ}疾の^{ツカ}おもあきハ^{ツカ}う^{ツカ}は^{ツカ}指
 すまよふ乃刀帯こ^{ツカ}を^{ツカ}ある^{ツカ}指
 瀆^{ツカ}焼の目^{ツカ}を^{ツカ}を^{ツカ}は^{ツカ}る^{ツカ}もの^{ツカ}を^{ツカ}指
 貴^{ツカ}を^{ツカ}日^{ツカ}如^{ツカ}り^{ツカ}知^{ツカ}こ^{ツカ}い^{ツカ}さ^{ツカ}乃^{ツカ}而^{ツカ}指
 ち^{ツカ}よ^{ツカ}う^{ツカ}う^{ツカ}い^{ツカ}海^{ツカ}心^{ツカ}手^{ツカ}習^{ツカ}は^{ツカ}そ^{ツカ}も^{ツカ}枕^{ツカ}ん^{ツカ}指
 の^{ツカ}る^{ツカ}は^{ツカ}待^{ツカ}し^{ツカ}半^{ツカ}井^{ツカ}の^{ツカ}門^{ツカ}指
 孝^{ツカ}ひ^{ツカ}を^{ツカ}食^{ツカ}れ^{ツカ}中^{ツカ}と^{ツカ}あ^{ツカ}ら^{ツカ}し^{ツカ}り^{ツカ}指
 小^{ツカ}歎^{ツカ}を^{ツカ}砂^{ツカ}を^{ツカ}斗^{ツカ}る^{ツカ}塩^{ツカ}時^{ツカ}指

送^{ツカ}て^{ツカ}送^{ツカ}り^{ツカ}見^{ツカ}る^{ツカ}に^{ツカ}下^{ツカ}涼^{ツカ}し^{ツカ}指
 四^{ツカ}月^{ツカ}の^{ツカ}脈^{ツカ}と^{ツカ}い^{ツカ}い^{ツカ}を^{ツカ}運^{ツカ}れ^{ツカ}さ^{ツカ}指
 燥^{ツカ}掃^{ツカ}ア^{ツカ}が^{ツカ}し^{ツカ}と^{ツカ}い^{ツカ}ん^{ツカ}袖^{ツカ}の^{ツカ}る^{ツカ}指
 小^{ツカ}海^{ツカ}他^{ツカ}も^{ツカ}う^{ツカ}た^{ツカ}標^{ツカ}の^{ツカ}鑿^{ツカ}口^{ツカ}指
 所^{ツカ}を^{ツカ}く^{ツカ}階^{ツカ}を^{ツカ}あ^{ツカ}げ^{ツカ}て^{ツカ}踊^{ツカ}ん^{ツカ}指
 モ^{ツカ}ト^{ツカ}イ^{ツカ}給^{ツカ}印^{ツカ}し^{ツカ}い^{ツカ}か^{ツカ}る^{ツカ}月^{ツカ}白^{ツカ}の^{ツカ}舌^{ツカ}指
 梨^{ツカ}落^{ツカ}菊^{ツカ}花^{ツカ}の^{ツカ}き^{ツカ}し^{ツカ}を^{ツカ}水^{ツカ}有^{ツカ}指
 扇^{ツカ}乃^{ツカ}下^{ツカ}へ^{ツカ}あ^{ツカ}ら^{ツカ}る^{ツカ}指
 袖^{ツカ}舌^{ツカ}指
 舌^{ツカ}指

白中

指

まうとやうにほろりと老の骨指
能登のつよふ白山の温泉地
静ある猿の舞乃由こしく音
脱しるあまの蓑の松明指
大枝りも盗人ほくみり
葉よりくまうとある感の子 音

壬申十二月廿一日 即興

芭蕉

赤らりてむ入探進んぢつたふ
階こむあうらうる 徳右 彫棠
目あしあはかりなをりくして 吾子
お孫のよれあひりき 塔小 黄山
才月つらあけしんあ 柳 桃隣
出代るこ新とせり 一ま 浪杏

剛ニ成ニまぬいひるる 槌の香 棠
育ニしやニあふニ居ニるニ 祝 晋
反ニもニこニまニ菜ニ種ニちニけニてニ 杏のむ 杏
茶ニ飲ニ煮ニしニ也ニにニ泊ニ帆ニめニ察ニ 蕉
下ニ法ニのニみニ好ニ乃ニしニきニくニあニるニ 山
つニるニいニ 猫ニ乃ニ力ニをニひニらニ本ニ 隣
ぬニつニやニ襟ニあニしニ也ニ 楓の良 棠
祝ニはニなニもニこニもニやニせニうニ 晋

舟のゆ 窓のくニあニてニあニるニ 蕉
こニすニのニみニをニきニくニ心ニ唇ニ 隣
まニいニはニ 嘆ニをニもニれニ 鈴の月 晋
らニんニこニいニもニくニさニくニ 遠サカレ 疫 棠
愚ニあるニ 和ニちニもニなニをニ所ニのニるニ 杏
きニみニのニあニをニ揚ニるニ 箱戸 梅 山
山ニきニれニりニくニくニ 比ニるニ 志ニつニくニ 蕉
移ニつニくニくニ 係ニれニ 合ニ歡ニのニ下ニ 音 晋

の中

の中

ふけむらゑん 栲へる床のいほ守る山
思をを再び 昼乃夕休 杏
気さしきく 曹洞宗の寒くひ 栲
焦ん 夢さくいさく 目を焼 棠
又ぬれのきくく 恋をさく 蕉
すくく すかろく 傘 蕉
歌しよふ 星ハ 鮫けいさる 棠
度ほく 先乃 走ひくふ 雁山

松茸を近江海うくハ 江山 晉
くくさい な子ハ ちくく 杏
老ハ 海邊より 和休 蕉
むね 名みく 楊貴妃 棠
付けしを 中しを 桃乃色 山
こくよの 乾乃 隣 三 絃 隣

わ

大

六月廿四日真り

結_ニ庵_ラ河_ハ邊_ニ

吟

舟人の裸も金や雲の峯

柳_ハ波_ハし_レ川_ハを_レ飛_レ蟬_ハ 音子

百草の屑や祀時_ハか_ハあ_ハは_ハ 沾徳

柄杓_ハ大_ハる_ハ4_ハ月_ハの_レ夜_ハは_ハ 吟

碓子_ハ肩_ハを_レま_ハる_ハて_ハ散_ハる_ハ 音

金具_ハを_レ止_ハを_レる_ハ以_ハ濱_ハ縁_ハ 徳

物_ハし_レる_ハも_ハた_ハも_ハあ_ハる_ハ家_ハの_レ心_ハ 吟

白_ハ波_ハの_レる_ハニ_ハの_レけ_ハ乃_ハ蓋_ハ 音

冬_ハ枯_ハも_ハ坊_ハの_レ愛_ハ岩_ハ寺_ハ松_ハ 徳

星_ハか_ハも_ハ海_ハの_レ圃_ハの_レ霽_ハ 吟

恙_ハも_ハも_ハも_ハき_ハぬ_ハの_レ襟_ハも_ハも_ハも_ハ 音

見_ハて_ハ投_ハ入_ハん_ハ用_ハの_レ切_ハ糸_ハ 徳

赤_ハく_ハも_ハ衣_ハを_レも_ハも_ハも_ハ川_ハ簀_ハ垣_ハ 吟

赤_ハく_ハも_ハお_ハ摸_ハあ_ハこ_ハか_ハく_ハも_ハも_ハも_ハ 音

下あ九三のこねん 承老し
志やむろをかく 長息乃目
食のなき 志賀の山 誠目も 雪
も日さうはる 芝のあ 紀
雉 祢らよ 笈えの 楯タテ 鳴鳥 音
鞆箱ひら 乃と びく びく
近チカ子ハ 乳母さうり なる 傀儡師
お暴子 くら 次 なる 相殿 音

焼ヤクい 木乃 垣の ぼく 乃 乃
病を と 上 くれ ち 嵐 出る 舟 所
僧や 皆 耳を 寒う 舟 山下 凡
粉河の 轂タテ 義々 なる 吟
怪く ち 乃 卵乃 目利 笈 乃 凡
解く ち 力 の つま ぎ 似 珠 音
あひ さん ち 階子 扱ツクし 舟 乃 凡
ほく ち みる ち の ち 舟 乃 凡

舟中

惟子よりやまらゆる所の音
たある^{ハナク} 餓もこれ同じあ
物輕きあまてハ賞氣し
世よりわらわらく木並場の歌
何のやうな女子成て花の陰
山吹おもしろくこの恋音

三子草一葉をさそく
おのころ雨と花とをむく

湖月

雨乃脚 日半^{ハシタ}をわらわをたぬ
手桶の蓋とてぬの 荷 素牙
寂椿^{イサハヤ}くハまの木槿をうらうひて紫紅
新より志ある京昆布の色 音子
粉^コ摺^{ツル}もあし女ありし月乃庭
掬^{ツク}乃 石北あは美のぬ 月

白中

重

以淺を推し心ろおそろ狐
 焼ヶ山越ち力をし白毫紅
 下糸の葉もろく通之り目
 押をまらるも恋のある顔
 一河ハ扱を乃勝手志つる位
 膝立とあく紙をくひさく
 甲橋とろりおきを冷の森
 夢此白く茶あといる酒月

舟の取も枕とつて人を踏音
 鴨乃目くくよ星の月籠
 難みある薬の法此花柳
 世しををすけ小坊の杏月
 春^名るや海り碁石のくも何紅
 下着ををくも百ある脱^{カク}音
 市切の女のもを体飛てよ心月
 ちろあく醒し誤ッ^ツ面^ツ月

白甲

三

あぢくと追跡舟乃来いと云く
一向宗乃 南无阿弥陀佛 音
借素袍ふみよあしを安りし
法後所免の擗りあく門 月
切飛浪とぬふ中なる部乃 音
桜子をみよと妻帯れ免徒 紅
十八がすまふよりをぬくむし 月
木曾木つづゆる月の川音 音

百姓の位をいそむる乃和 音
か行治身の人乃世中 紅

あはれし水を宿しそ大りし
あなをいそむる乃世中 音

花女を聖天所^四の^ある^こ晋
浮^一福^二瑞^三あ^くく^一幕^を通^はん^家
月^雪子^寸切^りも^中の^辰寮^位在^る
園^栗り^きて^遊山^絶り^叔
二^三依^川拔^ちる^まの^つあ^りも^我
言^りけ^けま^てて^迎ん^盗人^音
大^考の^川幅^さゆる^向人^風叔
一^小を^焚て^仕ま^ふ松^方音

此^京城^ある^ハえ^とく^深山^音
め^れと^用さ^れ骨^をさ^りむ^い家
あ^らや^さい^さり^りが^綸子^雪
柴^垣ら^も老^乃碎^一狂^叔
そ^らら^れわ^替と^の大^晦目^家
と^ちは^をま^るも^もも^も晋
聊^一や^湯女^子泣^きて^あら^れた^叔
狂^一詩^乃辨^りけ^んの^日雪

高き雪 飄 覃の履ケチかきびらり 音
 田の痛し 鹿はゆきこころに 我
 心敬の長恨 去りてさるる 雪
 赤茶の芥は寒は是も 叔
 下市のもり 蹴立る 甚盛 秋
 弱の行 袴の鈴の音は 晋

しのびこころのまじり
 しのびこころのまじり

寒玉

妙蛙ハ陰右もあはれ
 猪戸のきこし 夕を乃 菊 桂花
 回つとさ 月を乃 船を 吟を 紫
 物のとさ 月を乃 船を 吟を 秋色
 逆乃 葉の 眠る 乃 音子
 巧者乃 基 ばら 音子 友 玉

白牡丹の如く物々々々酒のる花
新裁タチに〜目うつろ紅ヒ晉
四十より紫のつやあふ玉椀色
ほあ〜り〜大ハ薔や忘や紅
ら〜くと新ツラハ極ハ舌子溜り音
を偶き〜をもあ〜り新花
亦積を物〜ち〜ける 世楷玉
唐紙も何れも十今の作音

山柿乃門のあそげん々々色
旁みさ〜つ〜一葉乃新玉
折むきり〜あ〜こよ色〜花
四糸で買ったけらろ杖色
彼岸中あ〜る〜調〜物〜建〜り音
瓶〜一〜笑の〜多〜色サハコト
米掾のち〜を〜く〜も〜色
浩糸あ〜れん〜文〜を〜所〜る花

白中

三三

